

世界遺産の基礎知識

世界遺産登録エリアはどの範囲？

2004年に世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」は、熊野三山、高野山、吉野・大峯の三大霊場と、それらをつなぐ参詣道から構成され、和歌山、三重、奈良の三県にまたがる。「道」が世界遺産に登録されたのは、スペインとフランスを結ぶ「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」に次いで2例目。

- 高野山町石道
 - 熊野参詣道「小辺路」
 - 熊野参詣道「中辺路」
 - 熊野参詣道「大辺路」
 - 大峯奥駈道
 - 熊野参詣道「伊勢路」
 - 熊野参詣道「紀伊路」
- 世界遺産登録資産
●温泉・その他

Basic knowledge

【世界遺産データ】

- 登録年月 / 2004年7月
 - 種別 / 文化遺産
 - 登録資産 / 霊場＝熊野三山、高野山、吉野・大峯
参詣道＝高野山町石道、熊野参詣道（中辺路（川の参詣道「熊野川」を含む）、小辺路、大辺路、伊勢路（七里御浜を含む）、大峯奥駈道）
 - コア・ゾーン（核心地域） / 495.3ha …東京ドーム約106個分
 - バッファー・ゾーン（緩衝地帯） / 1万1370.0ha
 - 参詣道の総延長（登録資産部分） / 約308km …東京-名古屋間の直線距離が約260km
- ※コア・ゾーン：遺産として直接登録される区域。 バッファー・ゾーン：遺産を保護するため、その周囲に設けられる区域。

世界遺産に登録された高い資産価値

熊野三山は自然崇拝に根ざした神道、高野山は真言密教、そして吉野・大峯は修験道。異なる信仰が紀伊山地の自然の中で生まれ、それらが参詣道で結ばれている点で、非常に貴重な事例だと言える。自然がなければ成立しなかった霊場と参詣道、そして今日まで続く文化的景観が高い価値を持つと評価された。

神仏習合の聖地「熊野三山」

熊野三山とは山ではなく、熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社の3つの神社の総称。それぞれが異なる縁起を持ち、古くから土着の神々が祀られた。「三山」と仏教的に総称されるようになったのは平安時代で、神仏習合の思想が色濃く反映されている。



熊野速玉大社 熊野本宮大社



季節を問わず歩かれる熊野古道

神々の使い「八咫鳥」

熊野の神々の使いである3本足のカラス。日本神話では、神武東征の際に熊野から大和へ先導をつとめた。近年では、「ゴールに導く神の使い」として日本サッカー協会のシンボルマークに採用されたことでも知られる。



熊野那智大社の「八咫鳥」像

参詣者の安全を祈る「九十九王子」

中辺路と紀伊路沿い、およそ2キロごとに「王子」と呼ばれる熊野権現の御子神をまつる社がたくさんあり、九十九王子と呼ばれている。九十九とは数が多いことの例えであり、熊野を目指す人々が道中の安全を祈願し、時に休息や宿泊場所ともなった。



熊野の神域への入り口とされる滝尻王子



禅定を続ける空海

「空海は今も高野山で生き続け、永遠に人々を救済し続けている」という信仰は、1200年の時を超えて現在まで連綿と受け継がれている。空海が入定し、禅定（真言密教の究極的な修行）を続けているとされる御廟には、衣服と日に2度の食事が僧侶によって今も給仕されている。



毎日欠かさず僧侶が御廟に食事を運ぶ

御廟へと続く「高野山町石道」

紀ノ川沿いの慈尊院（九度山町）から高野山上の壇上伽藍を経て、奥の院・弘法大師御廟まで続く約24キロの参詣道。空海が高野山を開山して以来、多くの参拝者や僧侶たちが歩いたとされる。沿道には、町石と呼ばれる五輪卒塔婆形の石柱が、一町（約109メートル）ごとに全216基建立されている。



高野山町石道に立つ町石

宿坊とはどんな場所？

本来は参詣者のために境内に建てられた宿泊施設だが、写経や阿字観、動行などの体験ができる寺院もある。高野山には50を超す宿坊があり、寺院建築や仏教美術、庭園、ふすま絵などそれぞれに特色がある。

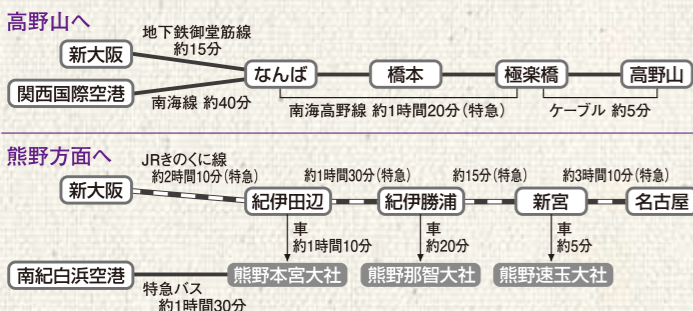


本格的な精進料理が味わえる寺院も

熊野比丘尼

熊野信仰を全国各地に広めた尼を指す。戦国時代から江戸時代にかけ、布教と寺院の建築・改修の勧進を目的に各地をめぐる。熊野那智参詣曼荼羅や熊野観心十界図などの絵を用い、絵解きによって熊野信仰を説いたとされる。

Access



高野山・熊野間
高野山駅→熊野本宮大社
車で約3時間。

※8月末までの期間限定で「熊野・高野アクセスバス」運行。問い合わせ/熊野交通予約センター (TEL.0735-31-3180) 詳しくはP23参照。